

## 人件費管理のポイント制の導入について

新潟大学は教員人件費管理のため、ポイント制の導入を行いました。このポイント制は教授1人当たりの人件費を1,000、准教授807、講師739、助教624のポイントとして管理していくもので、各部局の教員ポイントを各学系（歯学部の場合、医歯学系）で管理し、本部から配分されたポイント数内で教員を採用していく方法です（病院教員は除く）。平成29年度は口腔生命科学系列の教員（4月からは歯学系列に名称変更：歯学部担当教員）の使用ポイント計は74,573ポイントでしたが、平成30年度の配分基礎ベースは69,852ポイント、これに学長裁量経費分（准教授2名+若手女性枠1名）が2,238ポイント、そして機能強化経費から基幹運営交付金化された分（教授1名+助教1名）が1,624ポイントの計73,714ポイントとな

りました。すなわち、昨年度から859ポイント減となっています。配分基礎ベースが平成31年度67,074ポイント、平成32年度64,545ポイント、平成33年度61,613ポイントの予定で、平成30年度から平成33年度までで8,283ポイント減となる予定です。ただし、現時点で学長裁量経費分2,238ポイント、基幹経費化分1,624ポイント、計3,862ポイントがありますので、現時点では4,377ポイント減（助教7名分の定員削減）しなければなりません（ただし、大学設置基準による法令遵守分の定員数の縛りがありますので、この数値は最悪値です）。分野の教員数、教員採用基準の見直しや特任教員からの承継教員への採用等の検討を行っていく必要があります。

## 教授の選考について

平成30年7月18日に開催された歯学系列教員会議で、予防歯科学分野担当教授として、小川祐司先生、歯周診断・再建学分野担当教授として、多部田康一先生、口腔保健学分野担当教授として、吉羽邦彦先生が選考されました。歯学系系列教員会議の推薦を受け、7月24日開催の医歯学系教授会議にて承認されました。発令は10月1日付け予定。

また歯学教育開発学分野担当教授として、前田健康教授（現高度口腔機能教育研究センター）が選考されました（8月1日付け発令）。なお、本ポストは平成30年度概算要求で機能強化促進経費から基幹経費化が認められた新設ポストで、同経費により歯学教育開発室を設置しました。

## 名誉教授称号の授与について

平成30年3月31日で定年退職された宮崎秀夫教授と吉江弘正教授は教育研究評議会の議を経て、名誉教授の称号が授与されました。6月22日に松

風会館にて名誉教授授与式が行われました（吉江名誉教授は欠席）。



## タイ・マヒドン大学歯学部ならびにインドネシア・マラナタクリスチャン大学歯学部との部局間交流協定の締結について

かねてより、姉妹校締結の依頼が寄せられていたタイ・マヒドン大学歯学部ならびにインドネシア・マラナタ大学歯学部との部局間交流協定の締結を行いました。

4月23日に前田歯学部長、魚島副学部長（国際担当）がマヒドン大学歯学部を訪問し、Waranun Buajeebマヒドン大学歯学部長ほかマヒドン大学歯学部執行部の参列のもと、部局間交流協定式が行われました。交流協定式の後は、前川知樹助教（高度口腔機能教育研究センター）が交流協定締結を記念した特別講演を行いました。

また、部局間交流協定を受け、タイ・シリントーン王女が臨席されたマヒドン大学歯学部50周年記念式典（6月6日開催）に前田歯学部長が招待されました。マヒドン大学は1943年にタイで初めて医科大学として設立された国立大学で、現在では17学部、8研究所、6カレッジ、5センターを有する総合大学へと発展し、バンコクを中心に4つのキャンパス持ち、約26,000人の学生を擁しています。QS World University Rankingsの医学分野では世界のトップ100の大学にランクされています。



交流協定調印式後の記念撮影



記念講演を行う前川助教



マヒドン大学歯学部50周年記念式典での記念写真（中央がシリントーン女王）

また、5月11日に、前田歯学部長、魚島副学部長（国際担当）がマラナタ クリスチャン大学歯学部（インドネシア・バンドン市）を訪問し、部局間交流協定を締結しました。マラナタ クリスチャン大学は1965年に医科大学として設立され、現在9学部を有する総合私立大学で、バンドンに2つのキャンパス持ち、約10,000人の学生を擁し

ます。歯学部は2008年に設置され、2012年にプログラムの認可を受けた比較的新しい学部です。学生ならびに教員交流に加え、歯学教育カリキュラムの改善の協力依頼を受けました。インドネシアの歯学部としては、ガジャマダ大学、インドネシア大学、アイルランガ大学に続いて4校目となります。



W. Suwindere歯学部長との調印式



マラナタ クリスチャン大学執行部との記念写真

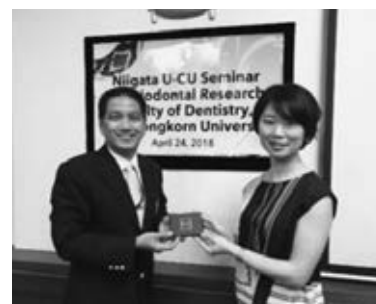
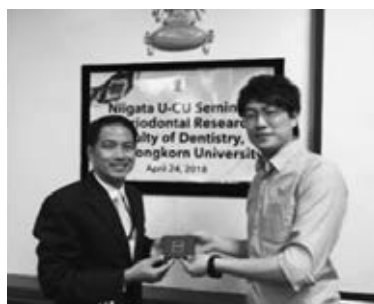
また6月7日にはタイ・チェンマイ大学歯学部との部局間交流協定の更新が行われました。なお、現在、カナダ・University of Toronto歯学部、米国・University of Washington歯学部、

タイ・University of Payao歯学部、ペルー・Universidad Científica del Sur歯学部の計4校から、部局間交流協定締結の申し出があり、締結可否の検討を進めています。

## タイ・チュラロンコン大学歯学部との 学術交流について

歯学部はタイ・チュラロンコン大学歯学部と部局間交流協定を締結しています。この度、同大学歯学部長Suchit博士からの依頼を受け、若手研究者による研究ネットワークの構築を目指し、4月24日にチュラロンコン大学歯学部で若手研究者セミナー（Niigata U-CU Seminar in Periodontal Research, Faculty of Dentistry,

Chulalongkorn University）に、高度口腔機能教育研究センターの若手教員3名が参加し、情報交換を行いました。Suchit歯学部長と前田歯学部長、若手研究者を交えた懇談会で、今後も若手研究者交流を継続していくことが合意されました。若手教員レベルでの国際共同研究の進展が期待されます。



左から、前川知樹助教、高橋直紀特任講師、山田友里恵助教とSuchit歯学部長

## 平成30年度科学研究費助成事業の内定について

4月1日付けならびに6月29日付けで平成30年度科学研究費助成事業の内定が行われました。歯

学系の採択状況は以下の通りです。

		基盤	基盤	基盤	挑戦的研究			若手	若手	若手	総計
		(A)	(B)	(C)	挑戦萌芽	開拓	萌芽	(A)	(B)		
新規	院（歯）	1	3	13	-	0	3	-	-	5	25
	病（歯）	0	0	3	-	0	0	-	-	9	12
継続	院（歯）	2	12	23	2	1	-	1	8	-	49
	病（歯）	0	0	20	0	0	-	0	15	-	35
計		3	15	59	2	1	3	1	23	14	121

本原稿執筆時には挑戦的研究（6月29日付け内定）を含めた採択率、課題保有率のデータは本部

より示されていませんが、新規採択率は35.5%（院）、31.6%（病院歯）、基盤（B）以上の課題

割合（新規）は3.7%（院）、0%（病院歯）、課題保有率（新規+継続）は68.2%（院）、52.2%（病院歯）、基盤（B）以上の課題割合（新規+継続）

は21.5%（院）、0%（病院歯）でした。大学院所属教員の新規採択率および課題保有率（新規+継続）は全学で1位の成績でした。

## 文部科学省高等教育局医学教育課眞鍋馨 企画官によるFD講演会の開催について

7月4日、文部科学省高等教育局医学教育課企画官の眞鍋馨氏をお迎えし、「歯学教育の動向について」と題してFD講演会を開催しました。本FD講演会は、近年、歯科をとりまく環境と状況が変化し、これに合わせて厚生労働省は「歯科保健医療ビジョン」を発表しており、歯科医学教育に携わる本学教員は、基礎、臨床の教室を問わず医学教育改革と歯学教育の課題について学び、今後の教育プログラムへの反映を図る必要があることから、開催されました。講演では、眞鍋企画官から、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改

訂に係るこれまでの取組や概要、歯学教育における診療参加型臨床実習実施のためのガイドライン（案）の構成や考え方、評価の在り方などについて詳細な解説が行われました。また、歯学教育の質保証に関して、我が国における評価制度、分野別評価の確立に向けた取組などについても説明がありました。翌5日は、歯学部歯学科のカリキュラム改革、臨床実習システムおよび評価方法の改善について意見交換が行われ、医歯学総合病院での臨床実習現場及び実習設備などの視察が行われました。



講演する眞鍋企画官



藤井教授から臨床実習の内容の説明を受ける眞鍋企画官

## アライアンスラボの整備について

歯学部では文部科学省概算要求採択事項「若手研究者が集うレジリエンスな口腔保健教育研究拠点の形成ーネットワーク型教員組織の構築と実質化による総合的な機能強化ー」による機能強化

を行っています。この取組は新潟大学基本戦略③「健康長寿と安全・安心社会の未来科学創生に向けた超域研究ネットワーク形成」の取組の1つとして取り上げられています。機能強化経費によ

り、昨年度から全学共有スペースE301で整備を進めてきたアライアンスラボが完成しました。歯学部の機能強化の方向性に沿った口腔生化学分野の照沼美穂教授らのグループが中心となって、先端的かつ学際的な研究が推進されることとなっています。このE301のアライアンスラボの整備により、第2期中期目標・中期計画期間から進めてきたアライアンスラボの整備が完了したことになります。



新たに整備されたE301アライアンスラボ

## デジタルセミナー室の設置について

平成29年度学長裁量経費（将来構想実現促進費）「増収・経費節減推進経費」の採択を受け、C101,C102の整備を進め、この度、「eWSルーム」2室が完成しました。このセミナー室には部屋ごとに最新式の大型モニター2台とホワイトボード、什器類が設置されています。また教授にはデジタルペーパー（Sony社製）が貸与され、ICTペーパーレスソリューション指導ができる体制が

整えられました。このセミナー室の設置目的は、一元管理化した外部資金申請体制確立と若手研究者の申請書作成能力の育成であり、すでに、若手教員向けの科研費申請書づくりセミナーが前田歯学部長、寺尾副学部長（研究担当）で開催されています。また各部屋16名分の什器類が整備されていますので、少人数のセミナー等にも利用できます。



eWSルームの設備



若手教員を対象にした科研費獲得セミナー

## 歯学部納涼会の開催について

恒例の歯学部納涼会が7月18日（水）にホテル日航新潟で開催されました。この会は数年前までは教授会納涼会として開催されていたものです

が、准講会、助教会の先生方、さらには大学院生にも参加を呼びかけ、本年は約100名の参加者となりました。教員、大学院生の親睦を深めるため

席順は抽選とし、短い時間ながら職種を超えた会話を進み、有意義なひとときを過ごすことができました。

## 新潟高校理数科「新潟大学歯学部訪問」 — Professionを学ぶ —

平成30年8月3日（金）、新潟高等学校理数科（メディカルコース）2年生の訪問を受けました。新潟高等学校は、歯学部前の西大通りを西へ1km進んだ場所に立地する県立高校です。創立120年を超える伝統を誇る一方で、「けんたか」の愛称で親しまれています。元来、医歯学系への進学率が高い傾向にあり、本学医歯学部にも卒業生が数多く輩出されていますが、12年前に理数科が設置され、さらに新潟県内の医師不足を解消する目的で、理数科にメディカルコースが導入された沿革を有します。このメディカルコースでは、1年生後半に医歯学系の特別講義を受講し、2年生で

はグループ学習を通じて医歯学系職種への理解を深めます。その2年の夏季期間中に、新潟大学の医歯学部を訪問する課題が設定されています。

さて、今年度の歯学部訪問は、4つの企画でプログラムが構成されました。はじめに、前田健康学部長から「歯学部の概要」等が説明されました（写真左上）。さらに、10年先の人口動態や医師および歯科医師数の予測データを示し、時勢ではなく自ら進路を客観決定する重要性が解説されました。続いては、基礎系科目の模擬講義を寺尾豊教授が行いました（写真右上）。科学的な論拠に基づく歯科診療には、ベースとなる基礎知識を生



新潟高校理数科「新潟大学歯学部訪問」の様子

涯学び続ける必要性があると説かれました。3番目の企画は、井上誠教授による臨床系科目の模擬講義でした（写真左下）。高齢社会における健康寿命の延伸とQOLの維持には、歯科臨床が非常に重要になってくることが論理的に解説されました。2つの模擬講義では、指名される場面があったうえ、最初に学部長から“Profession”を目指す自覚と責任が求められていたため、全員が熱心に聴講する姿を見せてくれました。最後の企画

は、「けんたか」OBの研修歯科医との懇談でした（写真右下）。やはり「けんたか」OBの小野和宏教授が司会を務め、活発な質疑を引き出し、全てのプログラムが終了しました。

訪問した高校生たちは、学務係の手厚く丁寧な準備と運営を感じてくれたように思われます。当日の教員・研修医・学務係の全ての姿から、本学歯学部“Profession”を学び、真の医歯学志望を育ててくれたことを願い、標題の報告を終えます。

## 新潟大学歯学部オープンキャンパス2018

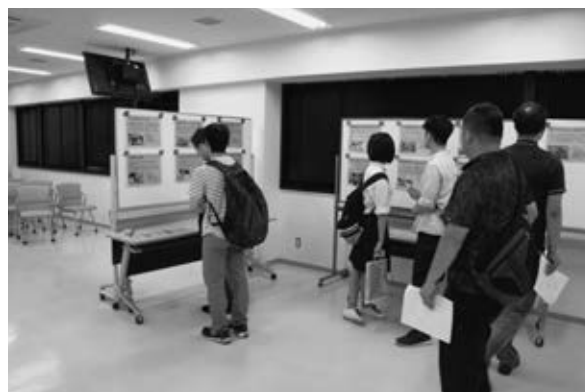
今年度も、平成30年8月9日、10日の両日、新潟大学旭町キャンパス歯学部校舎内の講堂をメイン会場として、オープンキャンパスを開催いたしました。昨年度の参加者アンケートで「在学生と直接話をしたい」「校舎を見学したい」等の意見をいただき、また、歯学部にある歯学科と口腔生命福祉学科の2つの学科についてバランスよく紹介させていただくために、今年度はプログラムの内容を一部変更するとともに、高校生の皆さんが自分の興味にしたがって主体的に参加できるよう配慮した計画としました。

午前中は、学務委員長の小野和宏教授から歯学部全体説明、入試実施委員長の高橋英樹教授から入試概要説明を行い、参加した高校生に歯学部での学生生活についての全体像をイメージしていた

いただいたのち、実際に歯学部の授業を体験してもらうために、2つの模擬講義を実施しました。一つは、歯学科の授業で、摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授による「食べることの大切さを知る」、もう一つは、口腔生命福祉学科の授業で、口腔保健学分野の葎原明弘教授による「お口の健康で元気に長生き」と題した講義で、ともに、超高齢社会での歯科保健・医療における課題解決につながるトピック満載な内容でした。また、模擬講義に並行して、「校舎内見学ツアー」が催され、講義室はもちろん、少人数グループ学習のためのPBL（Problem-Based Learning）室、臨床技能実習室をはじめとした各種実習室、学生自習室や学生交流室等を見学いただきました。新潟大学歯学部は50年以上の歴史をもちます



井上誠教授の模擬講義（講堂）



歯学部紹介展示コーナー（講義室）





校舎内見学ツアー（臨床技能実習室）

が、校舎は大型改修がなされ、最新の教育設備が完備されています。

午後は、「歯学部学生（歯学科および口腔生命福祉学科）との座談会」「短期海外派遣プログラム報告会」「シミュレーション実習（デンタルトレーナー体験）」が実施され、高校生の皆さんは、それぞれの催しに積極的に参加していました。とくに、昨年度の参加者アンケートにありましたが、「歯学部学生との座談会」には多くの高校生が集まり、歯学部学生の年齢が近いことあるのでしょうか、受験から大学生活に関するさまざまなことについて、活発に本音での話し合いがなされてい



歯学部学生との座談会（マルチディスカッションルーム）

ました。また、「短期海外派遣プログラム報告会」を聴く高校生も多く、海外留学への関心の高さを示していました。なお、今年度から、オープンキャンパスを一日楽しんでいただくために、休憩できるスペースを確保し、そこに歯学部紹介の展示コーナーを設けました。

前日まで台風の影響が心配されましたが、オープンキャンパスへの来場者は、2日間で高校生226名、保護者の方や高校の先生方を含めると336名と、外の暑さに負けない熱いオープンキャンパスになりました。

## ひらめき☆ときめきサイエンス実施報告

日本学術振興会では、科研費により行われている最先端の研究成果を、中学生、高校生の皆さんが直に見て、聞いて、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらうプログラム（ひらめき☆ときめきサイエンス）を毎年実施しています（<https://www.jsps.go.jp/hirameki/>）。平成30年度の本プログラムでは、新潟大学歯学部を含めた全国約300の大学・研究機関の取り組みが採択を受けました。8月9日に新潟大学歯学部で実施

した内容をご紹介します。

歯学部では、平成28年に続き2度目のプログラム実施となりました。今回は「味わうこと・飲み込むこと・食べることの不思議を体験しよう」と題して、食べるために重要な口腔の機能を、実験を通して考えてもらうことを目的とした実習を行いました。当日の参加者は6名でその内訳は高校1年生2名、中学3年生1名、中学1年生3名でした。1日のスケジュールは以下の通りです。

- 9:00 - 9:30 受付
- 9:30 - 9:40 開講式（オリエンテーション、科研費の説明）
- 9:40 - 10:20 講義（食べる機能と食べることにかかわる病気の話）
- 10:30 - 10:50 講義（食べる機能を知ること・測ること）
- 11:00 - 12:00 実習 食べる機能の計測（実験1）
- 12:00 - 12:45 ランチタイム（大学生、大学院生との触れあいタイム）
- 12:45 - 14:45 実習 食べる機能の計測（実験2、3）
- 15:00 - 15:45 ディスカッション・解説
- 15:45 - 16:00 修了式（アンケート記入、未来博士号授与）
- 16:00 - 16:15 記念撮影、終了、解散

午前9時半の開講式、科研費の説明に続き、超高齢社会の中で「食べる」機能に問題を抱える高齢者が増えている日本の現状、摂食嚥下障害の原因疾患から、その病態像にいたるまでという内容で講義を行いました。次いで、午前から午後にかけて3つの実験を行いました。実験1では、2人1組となって1) 最大咬合力、2) 最大舌圧、3)

ピークフロー（最大呼気力）、4) 握力を測定し、これらの値に互いの相関があるかどうかについて、全員のデータを集めた議論を行いました。実験2では、「筋電計による生体信号記録」として、顎口腔顔面筋から様々な表面筋電図を記録して咀嚼時の筋電図学的評価について学びました。実験3では、「おいしさを感じるしくみ」として、ミ



講義風景



実験1の説明



歯学部の学生さんとともに咬合力の測定



昼食を食べながら、将来の相談？

ラクルフルーツやギムネマ茶を用いることで味やフレーバーが大きく変化することを実感してもらいました。実習を通して、大学スタッフである実験分担者や歯学部生の実験協力者が十分にフォローを行い、参加者には楽しい時間を過ごすことができました。最後に未来博士の学位記を授与し、皆で記念撮影を行って終了となりました。

参加者からは、「今まで見ていた世の中を違った視点からみることができておもしろかった」、「今の世の中は間違っただけの情報や理解が広まっていることもあることを知り、とてもためになった」、「実験の結果をグラフにまとめてもらい分かりやすかった」、「自分たちで実験し、自分たちで結果をまとめる作業が体験できてとても良かった」、「皮膚には痛点や冷点などがあり感覚が分かるが、味覚となると、甘、酸など役割が異なるけれど、

同じ感じなのかなと思った」、「やわらかいものは安全だという理由のみでペースト状のものを老人の方や病気の方に食べさせることを知っておどろいた」、「誤嚥のメカニズムが分かった」、「口の中に長く残ってまとまりにくいもので誤嚥が起こりやすいのは呼吸をするからだと思った」、「実際に自分で研究をしたりして考えられて楽しかったです」、「来年も来たいです」など多くの意見が寄せられました。前回（平成28年度）実施時の参加者から、2名の生徒さんが新潟大学歯学部に入学されました。今回のプログラム参加を機会に、一人でも多くの生徒さんが将来の志望として歯学部や歯科医師を目指してくれると嬉しく思います。

なお、本プログラムの取り組みは以下のURLにてご紹介しています。

<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/dysphagia/hirameki.html>



実験2にて、自分の筋活動を筋電図の音と波形で観察



実験3にて、ミラクルフルーツのミラクルの体験



未来博士の学位記授与式の後、皆で記念撮影